

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS

The Society of Japanese Women Scientists



No.120 2017.3

I. 2017年新春に寄せて

2017年年明けの本会は、1月7日(土)大阪にて学術大会と新春シンポジウムを合同開催致しました。学術大会は、例会と1年ごとの隔年開催として実施致しております。

前半の学術大会では興味深い研究が発表されました。後半の新春シンポジウムでは、2名の講師の方々からそれぞれの分野におけるフロントランナーとしての研究に加え、力強いメッセージを込めた講演を頂きました。大学院生や非会員の参加者を多数得て、本会の活動を情報発信できた有意義な会となりました。企画運営に携わって頂きました関西ブロックの理事をはじめ、会員の皆様には改めて御礼申し上げます(詳細報告は2ページ参照)。

また昨年12月3日(日)には、2013年から連続開催を致しております内閣府と本会との共催事業を、東海ブロックの企画・運営により好評のうちに実施することができました(5ページ参照)。本ページを繰って頂きますと、これらの事業報告が紙面を埋めております。興味深い内容満載ですので、ぜひ最後までご高覧をお願い致します。

さて、昨年4月から女性活躍推進法が施行されました。その結果、大学も含めた多くの事業所においては、義務や努力目標に関わらず、数値目標を明記したアクションプランを策定、公表を実施しています。かつて女性研究者の状況を表現した「leaky pipeline」の入口対応

一般社団法人 日本女性科学者の会 会長 功刀 由紀子

は、この間声高に叫ばれてきました。しかしながら、途中の行程や出口の状況に関する評価は、確かに環境改善が見えるとはいえ決して満足のできるものではありません。

このような状況に対し、本会が何を行いどのような情報を発信すべきか、会員の皆様と意見交換のできる場を作ってゆきたいと考えております。また、全国の会員の皆様には、本会の定期事業であります会員総会、学術大会、例会等にご参加頂くとともに、本会に対する提言や活動のアイデア等お寄せ頂くことを期待致しております。

加えて2017年度には、女性科学者技術者の国際組織であるINWES (International Network of Women Engineers and Scientists) の傘下にあるAPNN (Asia & Pacific Nation Network)の定期総会及び関連イベントが、7月14日(金)、15日(土)と横浜で開催される予定です。ここではAPNN参加国から、各国における女性研究者の状況が報告されます。本会の参考となる情報も多々あると思いますので、7ページの関連記事をご参照頂き、会員の皆様にはぜひご参加の程お願い致します。

本会が一般社団法人として2014年4月に新たな一步を踏み出して、はや3年を迎えようとしております。法人としての社会的な責任を全うすべく、定款に則り、透明性の高い組織運営が必要とされています。その一環として、本会役員(理事、幹事)は、その任期満了時にブロック毎での選出手続きにより決定されることとなりました。そのため、会員の皆様方には、本年1月から2月にかけて理事候補者選出にご協力を頂きました。各ブロックにおいては、滞りなく理事候補者が選出され、来る5月28日(日)開催の会員総会にて承認の議案が提出される手順です。会員総会は、例年通り学会会館(東京)にて開催致します。奨励賞、功労賞の贈呈式および奨励賞受賞講演会との同時開催ですので、こちらもぜひご参加の程、お願い申し上げます。

目次

I. 2017年新春によせて.....	1
II. 第11回学術大会並びに新春シンポジウム.....	2
III. 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業報告.....	5
IV. INWES-APNN2017&GWSTへの参加募集	7
V. 第11回学術大会並びに新春シンポジウムと懇談会風景.....	8

第11回日本女性科学者の会学術大会並びに新春シンポジウム、懇親会開催報告

事務局（地独）大阪市立工業研究所 懸橋理枝

平成29年1月7日(土)、第11回日本女性科学者の会学術大会並びに新春シンポジウム（関西ブロック担当）が、大阪科学技術センター 8F小ホールで開催された。一昨年の合同大会は福岡、昨年 of 新春懇談会は仙台と、3年連続の地方開催となった。大阪にしてはひととき寒さも厳しい中、学生5名を含む23名の参加があった。

まず功刀会長（本大会実行委員長）からの開会のあいさつに引き続き、セッション1（学術大会）では6件の口頭発表、セッション2（新春シンポジウム）では2題の特別講演が行われた。その後、科学技術センター内レストランで懇親会を開催した。プログラムは以下の通り。

大会テーマ「自分の可能性を信じ、新たな挑戦を！」

【学術大会】セッション1 13:00~15:00

開会あいさつ：功刀由紀子

日本女性科学者の会 会長（大会実行委員長）

<一般講演>

座長：懸橋理枝（大阪市工研）

1. ユビキチン修飾システムの認識機構解明
○金 玫秀（京都大 白眉センター）
2. 質量分析を利用した、細胞毒性物質 α 、 β -不飽和カルボニル化合物の代謝経路の検討
○堀山志朱代、國友 勝（武庫川女子大薬）
3. 微生物を用いたラクトビオン酸カルシウムの生産
○村上 洋、桐生高明、木曾太郎、中野博文
（(地独) 大阪市工研）

座長：近藤科江（東工大生命理工）

4. ナノ銀が使われている食品用プラスチック容器からの金属類の溶出について
○尾崎麻子¹、岸 映里¹、大嶋智子¹、長谷 篤¹、河村葉子²（1：大阪市環科研、2：国立衛研）
5. 新規低分子ゲル化・増粘剤としてのアミドアミンオキシド型界面活性剤
○懸橋理枝、東海直治（(地独) 大阪市工研）

座長：功刀由紀子（愛知大学地域政策学部）

6. キュリー夫人と科学教育
○吉祥瑞枝（東京理科大、SSM（サイエンススタジオ・マリー））

【新春シンポジウム】セッション2 15:20~16:40

座長：藤井紀子（京大原子炉実験所）

特別講演1：努力に勝る天才なし

牧浦理恵 准教授

（大阪府大院・工・物質化学系）

特別講演2：「女性でもやれる」から

「女性ならやれる」へ

後藤景子 校長（奈良工業高等専門学校）

【懇親会】17:00~19:00

大阪科学技術センター 7階 レストラン

学術大会では様々な分野の6名の方の口頭発表があった。内容は、炎症反応抑制に深く関与するユビキチン化反応抑制機構の解明、質量分析法によるタバコ煙に含まれる細胞毒性物質の同定と定量および細胞への作用機序の検討、カスピ海ヨーグルトにも含まれるラクトビオン酸をカルシウム塩として微生物を用いて大量生産する手法の確立、ナノ銀抗菌剤が用いられている食品用プラスチック容器からの金属の溶出に関する調査研究、界面活性剤の会合体形成によるゲル化・増粘作用、キュリー夫人の科学教育に関するポリシーや実際に行った教育法についての紹介などであった。いずれも研究の背景について丁寧な説明があり、日ごろこれらの分野にあまりなじみがない人にも理解しやすい発表で、大変興味深いトピックでもあり、活発な質疑応答が行われた。また、マリー・キュリーの科学教育に対する取り組みについては、教育に携わる大学教員にとっても大変示唆に富んだ内容であった。



新春シンポジウムは、まず大阪府立大学の牧浦理恵先生に「努力に勝る天才なし」というタイトルでご講演いただいた。牧浦先生は、博士前期課程終了後いったんメーカーに就職されたのち、大学へ戻られたとのことで、進路や研究を進めていくうえで大きな決断をする場面が何度もあったそうである。新たな挑戦をするときには悩んだり迷ったりすることもあるが、「手を止めることなく、目の前のできることに着実に取り組めば、新たな道が開けてくると信じている」と、とても元気の出るメッセージをいただいた。

次に、奈良工業高等専門学校校長の後藤景子先生に「女性でもやれる」から「女性ならやれる」へ」というタイトルでお話しいただいた。後藤先生は、高専初の女性校長として昨年4月に奈良女子大学教授から高専校長へと転身された。ご講演では、繊維の表面改質に関するこれまでのご研究の話と、活発に進行中であっ

たご自身の研究をいったんストップして高専校長に就任された経緯についてお話しいただいた。今の自分にしかできない仕事として高専校長への就任を決断されたとのことで、「自分にしかできないこと」に挑戦することの大切さについてお話しいただいた。お二方とも、大会テーマである「自分の可能性を信じ、新たな挑戦を！」にぴったりのご講演で、聴講者はみなパワーと元気をいただいた。

午後5時から、科学技術センター内にあるレストランに場所を移し、大島範子監事の乾杯のご発声により懇親会が開催された。懇親会には3名の学生を含め20名が参加し、賑やかな会となった。

新年早々ご講演いただいた先生方には厚く御礼申し上げます。また遠方より多くの方に参加していただき、大変盛会となりましたこと、こころより御礼申し上げます。

・新春シンポジウム特別講演要旨

努力に勝る天才なし。

大阪府立大学 大学院工学研究科 物質化学系専攻 マテリアル工学分野 准教授 牧浦 理恵

「努力に勝る天才なし。」小さい頃に、今は亡き祖母に教えてもらい、立志式でも読み上げました。研究者となり、壁にぶつかった時は、このことばを思い返します。特別講演では、研究内容に加え、研究者になるまでの経緯、私が経験したテニユアトラック制度、子育てをしながら研究を進めるポイントに関して、お話させていただきました。

大学院博士前期過程を終えた後、企業に就職し、研究所に配属されました。研究が中心の仕事を進める中で、企業といえども、博士号の取得は必要と感ずることが多々ありました。そんな中、大学の任期付きプロジェクト助教のお誘いがあり、企業を辞め、大学に移りました。プロジェクトの研究に貢献しながら、論文を書いて博士号を取得する計画でした。着任後、新しいテーマに対する意欲が高まる一方、空回り続きで全く結果が出ず、周囲が学会発表準備に追われる様子を横目で見ながら、焦りだけが付きまとう日々が続きました。ある日、研究室を訪れた他大学の先生に研究紹介をする機会があり、全く結果が出ず紹介する内容もないことを伝えると、初対面ながら、「君だったら大丈夫、今できることをしっかりやれば、絶対に良い結果が出るから」と言われ、祖母からの言葉と重ねました。それ以降、気持ちを切り替え、結果を急がず、できる事を着実に進めていきました。そんな毎日の積み重ねがまとまった成果となり、博士号取得、テニユアトラック講師としての採用につながっていきました。2015年には、任期なしの准教授に採用されました。

新たな挑戦をするためには、時間がかかります。これで正しいのかと、思い悩むことも多々あります。そんな時でも、手を止めることなく、目の前のできることに着実に取り組めば、新たな道が開けてくると信じています。



「女性でもやれる」から「女性ならやれる」へ

奈良工業高等専門学校 校長 後藤 景子

専門分野は衣環境学・コロイド界面科学で、健康・快適・安全・安心な衣環境の構築を目指して女子学生たちと一緒に追いかけた研究テーマは、布の洗浄や表面加工です。洗濯の前に大気圧プラズマジェット処理（酸化）を行い、汚れ除去の機械力として超音波を利用することにより、布の損傷を抑えて短時間で高い洗浄効果を得ることができました。現在は、すすぎ過程でのファインバブル水の利用を検討中です。大気圧プラズマジェット処理に関しては、酸化処理と合わせてシラン化合物を用いたプラズマ重合を利用すれば、布の親水化／撥水化が可能となり、その結果、防汚性が発現されることがわかりました。これらの研究成果が、次世代型洗濯システムや高付加価値衣服素材の開発に繋がればと期待しておりました。

そんなある日突然、高等専門学校校長就任のお話がありました。悩んだ挙句、「一歩前へ」という女子学生たちへのメッセージということで決心し、平成28年4月に国立51高専初の女性校長として奈良高専に着任しました。高専は技術者養



成を目的とした高等教育機関ですが、これからのものづくりには最新の研究成果を技術開発に利用し、これまでにはない高付加価値製品を創り出すシステムが必要ではないかと思っております。現場ではともすればハード面が重視されがちですが、ソフト面からものづくりに取り組むことができる、つまりユーザー目線をもった技術者の存在が、付加価値の高いものづくりに必要であると思います。製品開発・生産の現場に女性が増えることで、日本のものづくりが一層進むことを期待しています。そんなことを考えながら、「女性ならやれる」ことを探し、新たな挑戦を行う毎日です。

・第11回学術大会並びに新春シンポジウムに参加して

女性科学者・研究者の更なる飛躍に乾杯！

東邦大学名誉教授 大島 範子

学術大会の会場には初めてお目にかかる若い方々が多いのに、まず驚かされた。東京で開催する催しには顔なじみのメンバーの出席が多いので、とても新鮮な印象を受けた。これまで東京以外で開催された大会には仙台・福岡・大阪に参加してきたが、何といても初対面の会員の方々との出会いが一番の収穫である。

一般講演の演者も当然若い方が多く、生命科学や化学分野の内容が主流であった。大学所属会員の研究発表に加えて、今大会では大阪市立の工業研究所や環境科学研究所所属会員の、市民に直接還元できる研究の展開に触れることができ、本会会員の研究分野が多岐にわたることを再認識する機会となった。さらに、吉祥会員がキュリー夫人の科学教育者としての功績を紹介し、ご自身の活動にも触れながら、幼少からの適切な科学的教育の必要性を訴えた。これまで、次世代育成の活動も本会会員によって展開されてきたことを思い起こし、会員の層の厚さを生かした活動こそが本会の強みであると改めて感じた。

新春シンポジウムでは2つの特別講演を拝聴した。多少の回り道をしながら、しかし常にあせらずポジティブに生きて、結婚後も別居を余儀なくされながら研究と育児を継続中の牧浦先生、奈良女子大教授から女性初の高専校長に転出された後藤先生の生きざま、講演中は感動と共感の連続であった。共通することは、これまでの既成の概念にとらわれず、未知なることにも果敢に挑戦する勇気であり、これこそが今後の日本を切り開く女性の強みであるように思われた。もっと多くの会員にきいてもらいたかったというのが本音である。懇親会で大阪市環境研の尾崎会員が発した「私は市民のために研究しています」という言葉にも大いに感銘を受けて帰途についた。

SJWS第11回学術大会・新春シンポジウムに参加して

奈良女子大学 理学部 金崎 悠

先日、大阪で開催されました第11回日本女性科学者の会の学術大会並びに新春シンポジウムに初めて参加させていただきました。学術発表セッションでは、京都大の金先生、武庫川女子大の堀山先生、大阪市環科研の尾崎先生、大阪市工研の懸橋先生、ならびに東京理科大の吉祥先生よりご講演頂きました。普段、参加している研究発表会では、他分野の研究内容を拝聴する機会が少なく、自身の専門分野とは全く異なる研究分野についてのご講演でしたが、初心者にもわかりやすくご説明いただき、先生方のご発表が大変勉強になりました。また、学術発表会の後に開催されました新春シンポジウムでは、“女性科学者としての生き方”について、大阪府大の牧浦先生、奈良高専の後藤先生よりご講演頂きました。先生方の研究のお話だけではなく、家庭と仕事を両立するための工夫、そして教育への想いについてお話しただけで、若手研究者である自身にとっては、これから研究を続けていく上で、大変勇気づけられるご講演でした。

その後行われました懇親会では、先輩である先生方から私たち若手研究者へ、今の研究生活のことのみならず、私たちが担う将来の科学技術の在り方についてたくさんのご助言をいただきました。長い歴史をもつ日本女性科学者の会が、次世代への橋渡しを担っていることを実感いたしました。この場をお借りして、ご参加されていただきました先生方へ厚く感謝申し上げます。

第11回学術大会並びに新春シンポジウムに参加して

奈良女子大学 生活環境学部 リンフイイー

マレーシアからから参りましたリンフイイーと申します。第11回の学術大会並びに新春シンポジウムに参加して、多くの知識が得られました。講演の内容は生物の分野から教育の分野まで、幅広くて深かったです。この日本女性科学者の会への参加によって、素晴らしい研究や女性の研究者を知ることができました。面白い内容はもちろんですが、先生方が自分の研究を一生懸命みんなに説明する姿に感動しました。私は現在学部4回生で、卒業研究に取り組んでいますが、とても難しく、何度も諦めたくなることもあります。しかし、講演を聞き、先生方の研究は私の研究より何百倍も複雑だと思いました。先生方は諦めず、さらに研究を進め、この大会で発表することができたのです。先生方の研究に対する情熱、そして諦めない精神が私を励ましてくれました。また、特別講演で、先生方からご自身の経験、人生談を聞かせていただいて、大変参考になりました。人生は山あり、谷ありですが、これから困難に遭うたびに、特に女性だから遭う問題、先生方の言葉「女性ならやれる」、「努力に勝る天才なし」を思い出し、頑張っていきます！！そして先生方から学んだ不屈の精神を持って、どんな困難にも立ち向かっていきます！！

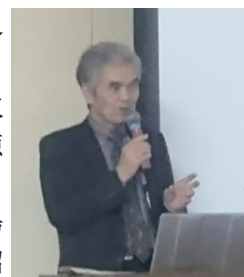
「自然と科学が拓く 地域の未来、あなたの未来」に参加して

岐阜大学 中村江里

去る平成28年12月3日(日)に、高山市民文化センターにて開催された国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業「自然と科学が拓く地域の未来、あなたの未来」に参加しました。

本事業は、日本女性科学者の会と内閣府が主催し、女子中高生の理系学部進学への意識啓発を目的として開催されました。

第1部では地域で活躍する様々な職業の4人の講師による講演が行われました。初めに、白子 順子氏（高山赤十字病院 第一内科部長）より、「医師というお仕事」について、お話をいただきました。消化器内科として勤務されている病院での仕事の概略を紹介され、現在では開腹手術なしで、内科的に治療できる病気が増えていること、特に岐阜県は女性の癌が増えており早期診断で内視鏡で治療できることを取り上げ、ご自身の内視鏡検査の様子をビデオ上映するなど、中高生が医師という仕事をより具体的に理解できるように工夫をしていただきました。また、海外派遣の仕事についても、カンボジア、パキスタン、シリア、ドイツ、フィンランド等の写真を見せながら、豊富な海外での医療業務を通して、医師の活躍の場は、世界であることをお伝えいただきました。



続いて、岡田 賛三氏（飛騨産業株式会社 代表取締役社長）より、「飛騨産業株式会社の取り組みと女性の活躍」について、お話をいただきました。飛騨では縄文時代から森林資源の有効活用が生活に根付いていること、飛騨の匠の伝説、江戸幕府直轄の天領であった事等、飛騨の歴史的背景、続いて、1920年に中央木工（飛騨産業の前身）の創業、戦時中は軍需工場になり、戦後、飛騨産業株式会社に社名が変更され、現在に至るまでの会社の発展の経緯をご紹介いただきました。最後に社員の現代名工への選出、飛騨職人学舎の設立、女性の活躍（460人中126人が女性）についてお伝えいただきました。唯一の男性登壇者でありましたが、飛騨産業への情熱とユーモアを交えながらの講演に、会場は始終和やかな雰囲気になりました。



3人目は、荒木 陽子氏（丸山 広恵氏の代理）（アピ株式会社社長良川リサーチセンター製品開発顧問）より、「仕事へのモチベーション」についてお話をいただきました。社名である“アピ”とは、ラテン語で“ミツバチ”を意味する言葉であること、会社の理念、歴史、続いて、丸山氏の学生時代から就職、就職してからの特定保健用食品の開発（荒木氏とは上司と部下の関係）、学位取得、結婚・出産を経て、現在の部署に至るまでの経緯をご紹介いただきました。最後に、丸山氏は、常に仕事へのモチベーションを高く持ち、今までも不可能だと思われる壁を幾つも乗り越え、事業戦略室の次長として、新しいことに挑戦し続ける日々であることをお伝えいただきました。



4人目は、木村 了氏（NPO女性技術士の会 理事長）より、「理系職業の楽しさ…期待される女性の発想」についてお話をいただきました。子供の頃から絵を描くことが好きで、現在の道を選択したこと、続いて、技術士の仕事として、建築・造園・地域整備等があることをご紹介いただきました。最後に、女性が少ない業界だからこそ、女性の視点を活かすことで新たな発想が生まれるのであり、すなわち、女性が活躍することが、結果としてより良い社会の構築につながっていくと理系職業を目指す中高生にエールを送っていただきました。

第2部では「社会で役立つ理系の勉強 未来の仕事を見つけよう！」とテーマを掲げ、パネリスト（原山美知子氏（岐阜大学工学部准教授）、藤田昌子氏（岐阜女子大学家政学部教授）、小倉ふじの氏（高山市役所基盤整備部）、板津純子氏（高山市立中山中学校教諭））によるパネル討論会が行われました。

会場では、全員（中高生、大学生、保護者、教員等々）参加で、大学生がファシリテーターとなり、グループディスカッションが行われ、続いて各グループからパネリストへ質問を行いました。指名されたパネリストは、ご自身の経験を通して、具体的なアドバイスをお答えいただくと同時に、諦めずに今、やるべきことに真剣に取り組んでいくことが、自らの夢に実現につながっていく、とのエールをいただきました。

中高生、大学生は、普段、第一線で活躍している女性の声を直接聞く機会はありませんので、今回のようなイベントの開催は、将来を具体的に考えるために非常に参考になり、有意義であると考えます。また、将来、このイベントに参加した学生たちが社会で活躍する時代になった時、自分たちよりも若い世代を育成していきたいと思うようになった時、このイベントのことを思い出してくれるに違いないと信じています。



世紀を越えて 自然の恵みをあなたのチカラに

健康補助食品・医薬品の
総合メーカー



アピ株式会社 代表取締役社長 野々垣 孝彦

本 社/〒500-8558 岐阜市加納桜田町1-1 TEL.058-271-3838
 東京支店/〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14-15 TEL.03-3662-3878
 クオリティセンター/〒500-8463 岐阜市加納新本町4-23 TEL.058-271-0183
 長良川リサーチセンター/〒502-0071 岐阜市長良692-3 TEL.058-232-0838
 ミズホ先端技術センター/〒501-0221 瑞穂市只越1068-5 TEL.058-325-1038
 工 場【池田/池田医薬品・池田/バイオ医薬品・揖斐川/ネクストステージ本薬 本荘】



INWES-APNN2017&GWSTへの参加募集！

JNWES担当理事 近藤科江

SJWSが主催団体となっている国際イベントINWES-APNN2017&GWSTが2017年7月14日(金)、15日(土)に横浜シンポジア（横浜市中区 産業貿易センタービル8階・9階）にて開催されます（HP: <http://apnn.jnwes.org/>）。

このイベントは、SJWSが法人会員となっている特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク（JNWES）が議長国となっているINWES-APNNに参加しているアジア13か国が、毎年集まって開催しているものです。JNWESは、現在4つの科学者・技術者支援団体が共同運営しているバーチャル団体で、国際的ネットワーク構築を目的にして活動しています。横文字も多いし、聞きなれない組織名、会議名も多いので、SJWSのグローバルな活動を理解して頂くために、簡単な組織図をお示しします（図1）。議長国の任期は3年で、JNWESは、1年目にモンゴル、2年目にニュージーランドで、同様のイベントを開催しており、3年目の今年は横浜市で開催します（図2）。

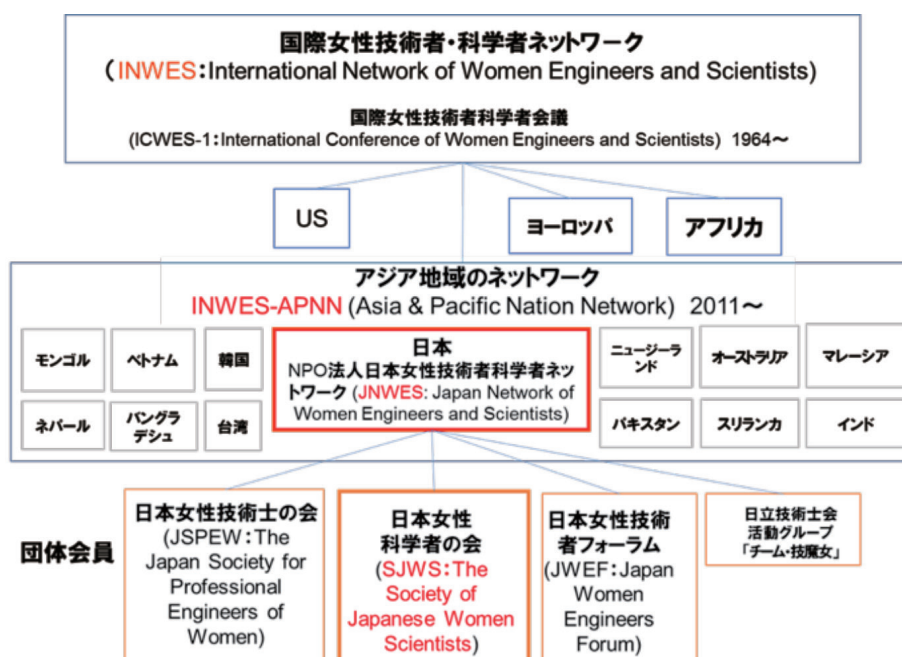


図1 INWES-APNN関連組織図

イベントの内容としては、初日（14日10時～）がAPNN会議で、各国の代表者から自国の理系技術者・科学者を取り巻く状況の報告、2日目（15日10時～）は、主催国が独自のテーマで企画するグローバル女性科学技術会議（GWST: Global Women in Science/Technology）となっています。両日も参加可能ですので、ぜひご参加ください。

SJWSは、GWSTの運営を担当しており、3年前からJNWESの他の団体メンバーのお力をお借りしながらGWSTの準備を進めてきました。日本でのGWSTのテーマは、『世界で輝け、理系女子！あなたの夢が世界を変える』をテーマに、日本で深刻となっている「理系女性の少数問題」に多面的に取り組めます。同様のテーマで取り組んでいるイベントはたくさんありますが、GWSTでは、「高校生・大学生・大学院生・企業の若手研究者」を対象として、主催4団体とリケジョグループ、大学、企業が連携してこの問題に取り組めます。具体的には、「理系女子大生コミュニティ凜」「数理女子」「東工大テクノガールズ」「リケチェン！」といったリケジョグループによる「高校生・大学生・大学院生」向けの「真相を探る」本音トークや大学生生活紹介・相談コーナー、協賛企業の若手研究者による「私の仕事紹介」、INWES-APNN各国代表者によるトークショーや意見交換テーブルミーティング、主催団体による「理系の仕事紹介」、後援大学連携会議など、盛り沢山の企画（同封のチラシ参照）を用意しており、これらを自由に選択して参加して頂けます。

3月から参加者登録を行う予定ですので、ぜひ上記ホームページにて参加登録をお願いします（同封のチラシ参照）。また、INWES-APNNおよびGWSTともボランティアを募集しています。SJWSはGWSTを担当していま

すが、現在のところSJWSから協力いただけている方はごく少数です。企画準備などのお手伝いを頂ける会員の方は、ボランティア申し込み先 (apnn.secretary@gmail.com) または、award@sjws.infoにご連絡下さい。ご連絡をお待ちしています。

議長国	第1回 2011年9月 オーストラリア、アデレード
韓国	第2回 2012年6月 マレーシア、クアラルンプール
	第3回 2013年9月 台湾、台北
	第4回 2014年7月 韓国、ソウル
日本 JNWES	第5回 2015年6月 モンゴル、ウランバートル
	第6回 2016年8月 ニュージーランド、ウェリントン
	第7回 2017年7月 日本、横浜 (予定)

図2 INWES-APNN 年表

V. 新春シンポジウム・懇談会風景



編集：大富 美智子・玉井 幸恵・山口 陽子・小杉 尚子・四谷 理沙

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©

事務局：〒453-8777 名古屋市中村区平池町4丁目60-6 愛知大学 名古屋一般教育研究室内

TEL：052-564-6151 FAX：052-564-6251 E-mail：sjws-office@sjws.info